

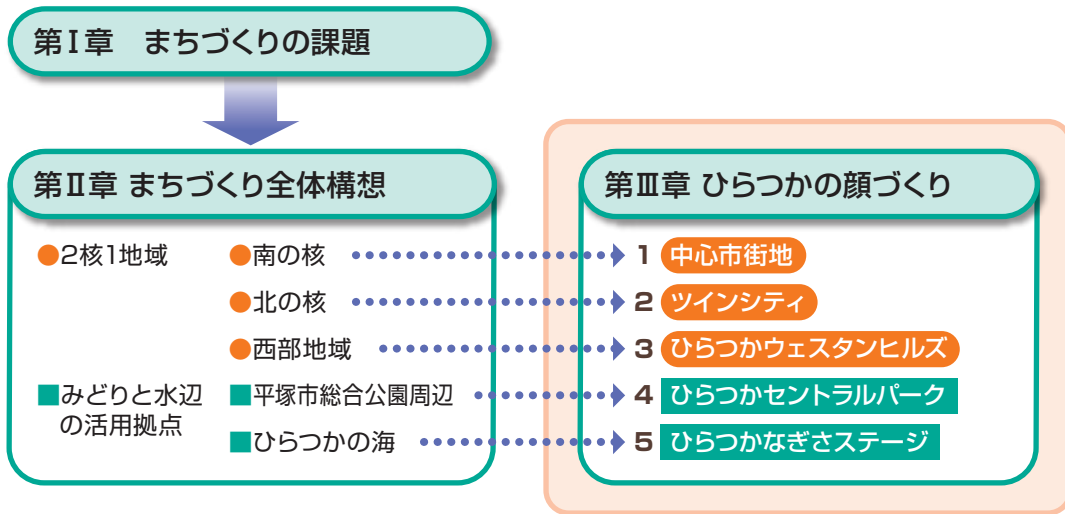
# 第Ⅲ章 ひらつかの顔づくり

本市独自のメッセージ性のある戦略づくりとして、本市をアピールする先導的な地域を5つ設定し、顔づくりとしての取組みの方向を示します。

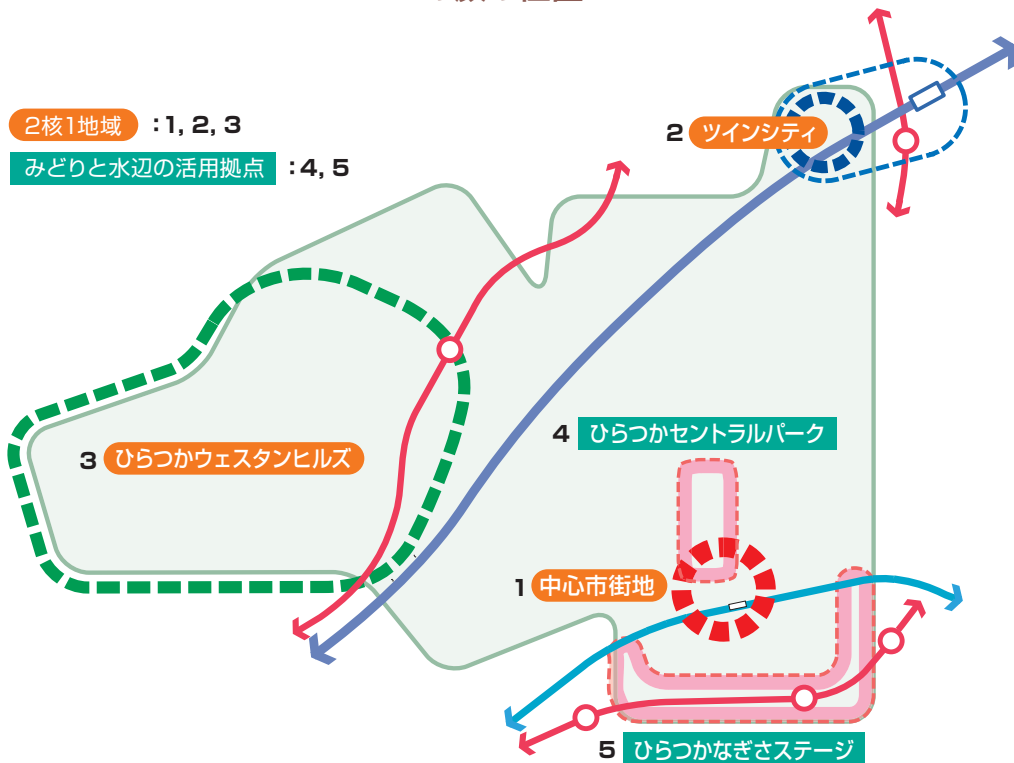


●本章では、第Ⅱ章(2)の将来都市構造のうち、2核1地域である「南の核」「北の核」「西部地域」と2つの活用拠点である「平塚市総合公園周辺」「ひらつかの海」の5つを、ひらつかの顔として示します。

●この5つのひらつかの顔を、ひらつかの都市としての価値を高め、ひらつかをアピールする先導的な地域とします。



5つの顔の位置



## Ⅲ.1 中心市街地

### (1) 概況

- ・平塚駅周辺の「中心市街地」は、戦災復興土地地区画整理事業でほぼ成立し、街区が大きいこともあり、自動車に適した商業形態として発展してきました。しかし、車社会のさらなる進展と郊外型店舗の進出などにより購買人口が大きく減少しています。
- ・平塚駅北口を降りても平塚をイメージするものが少なく、北口広場は乗り換えが不便です。また、駅周辺は放置自転車による安全面や景観面での問題もあり、本市の玄関口としての風格が求められています。市民アンケート調査\*でも市民の問題意識は高く「にぎわいが感じられない」「商業が充実していない」「安心なまちにして欲しい」などの声が多く聞かれます。

### (2) 顔づくりのねらい

- ・街なかのいたるところで驚きや快適さを見つけられ、ときめきそして心豊かになり、また物販機能に加え、サービス機能や滞留時間消費機能が充実しており、高齢者や学生を始め、様々な人々が気軽に安心して楽しめるような中心市街地とすることが重要です。

### (3) 取組みの方針

- ・目的の商品やサービスのために来街するだけでなく、気軽に散策でき、楽しさを享受できる中心市街地とすることをめざします。
- ・平塚駅周辺は、玄関口としての機能強化、歩行者や自転車重視の空間づくり、回遊性の充実などをめざします。

### (4) 取組みの方向性

#### ●平塚の玄関口としての風格ある駅前づくり

- ・平塚駅の南口から北口に至る動線の機能の強化、北口広場におけるバス利用者のためのバリアフリー整備、北口及び南口広場における人がたまる空間の創出、両広場周辺におけるみどりの見え方の工夫、そして沿道建物を含む駅前大通り線（フェスタロード）及び平塚駅海岸線（なぎさプロムナード）における良好な景観の形成などを進めます。
- ・交通と観光の案内役となり、交通の乗り換え時のサービスなどを提供する施設の設置について検討します。

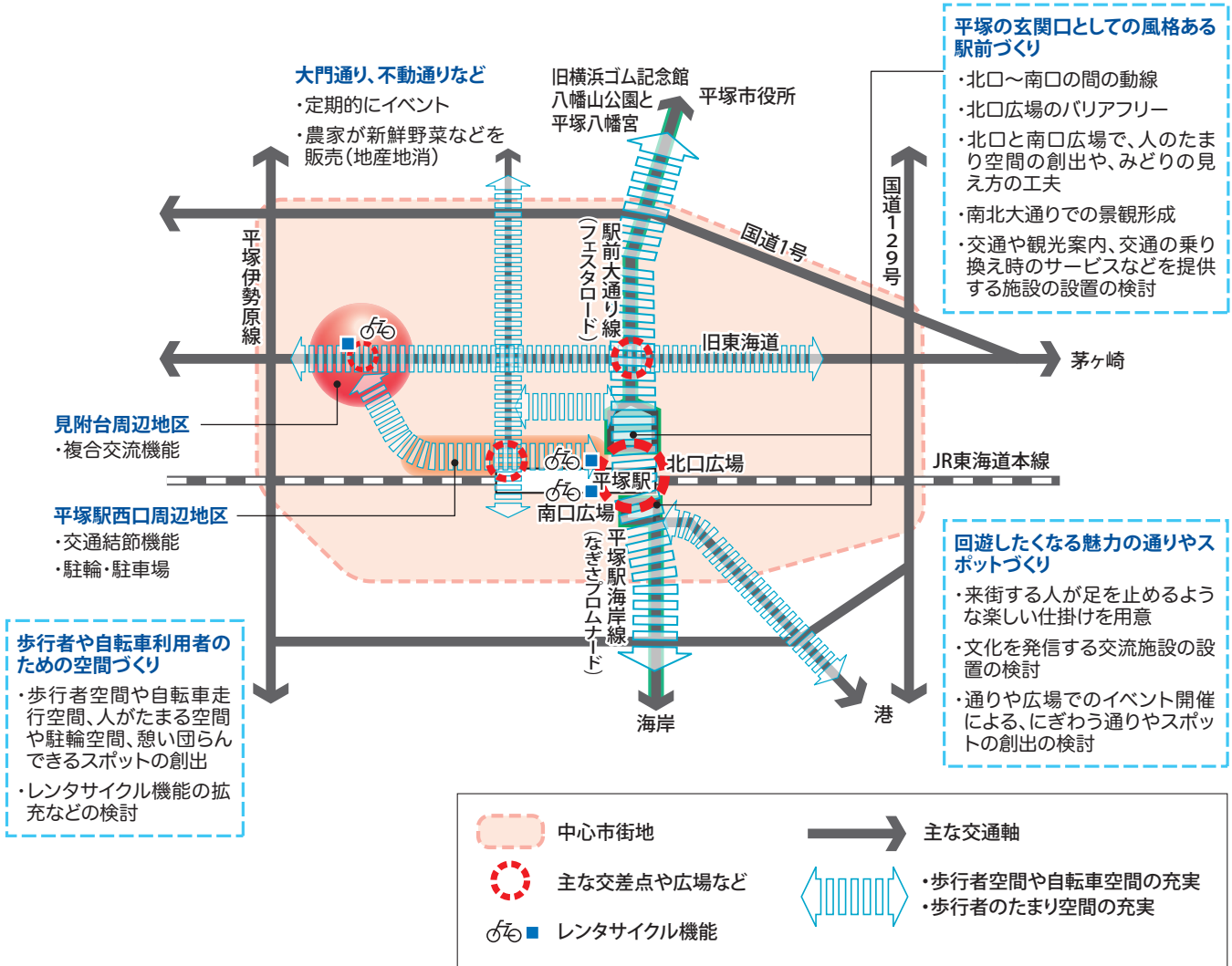
#### ●回遊したくなる魅力の通りやスポットづくり

- ・平塚駅周辺の中心商店街においては、来街する様々な世代が足を止めるような楽しい仕掛けを用意し、ときめきそして心豊かに買い物してもらうための活性化に努めます。
- ・平塚駅西口周辺地区や見附台周辺地区を再整備すると共に、平塚市の文化などを市民と商店街と市などが協働で発信する交流施設の設置について検討します。
- ・歴史的に由緒ある道路や人通りの多い道路、モール、広場などで、定期的なイベントなどを開催し、様々な人でにぎわう通りやスポットの創出について検討します。

#### ●歩行者や自転車利用者のための空間づくり

- ・自動車利用の抑制と共に、歩行者や自転車利用者を重視した道路とするため、車道と歩道と植樹帯などを再配分することによって、歩行者空間や自転車走行空間、人がたまる空間や駐輪空間、憩い団らんでできるスポットなどを創出します。またレンタサイクル\*機能の拡充などについて検討します。

### 中心市街地に係わる取組みの方向性のイメージ



## Ⅲ.2 ツインシティ

### (1) 概況

- ・「ツインシティ」は、新幹線新駅整備による神奈川県土の新たな南のゲートとして計画されており、本市においては大神地区がその一翼を担い、北の核となります。一方でツインシティは、開設間近のさがみ縦貫道路寒川北インターチェンジ（仮称）に近い位置にあります。このように2つの広域高速交通の結節点への至近性から、ツインシティにおいては新しい都市機能の立地需要が高まっています。

### (2) 顔づくりのねらい

- ・鉄道駅が1つである本市にとって、2つの広域高速交通の結節点に直結する「新たな都市核」が形成されることは、本市全体の都市活力を高めるチャンスとなります。また、これまで都市機能のなかった地区に新しい都市を形成することから、本市の新しい顔として21世紀を見通す計画的なまちづくりが必要です。

### (3) 取組みの方針

- ・ツインシティ（大神地区）は、「人と環境にやさしく、様々な人が交流し、新しい産業や高次都市機能が集積する、平塚の新たな玄関口」をイメージします。このため「環境共生型」「公共交通指向型」「地域生活圏形成型」のまちづくりをめざします。

### (4) 取組みの方向性

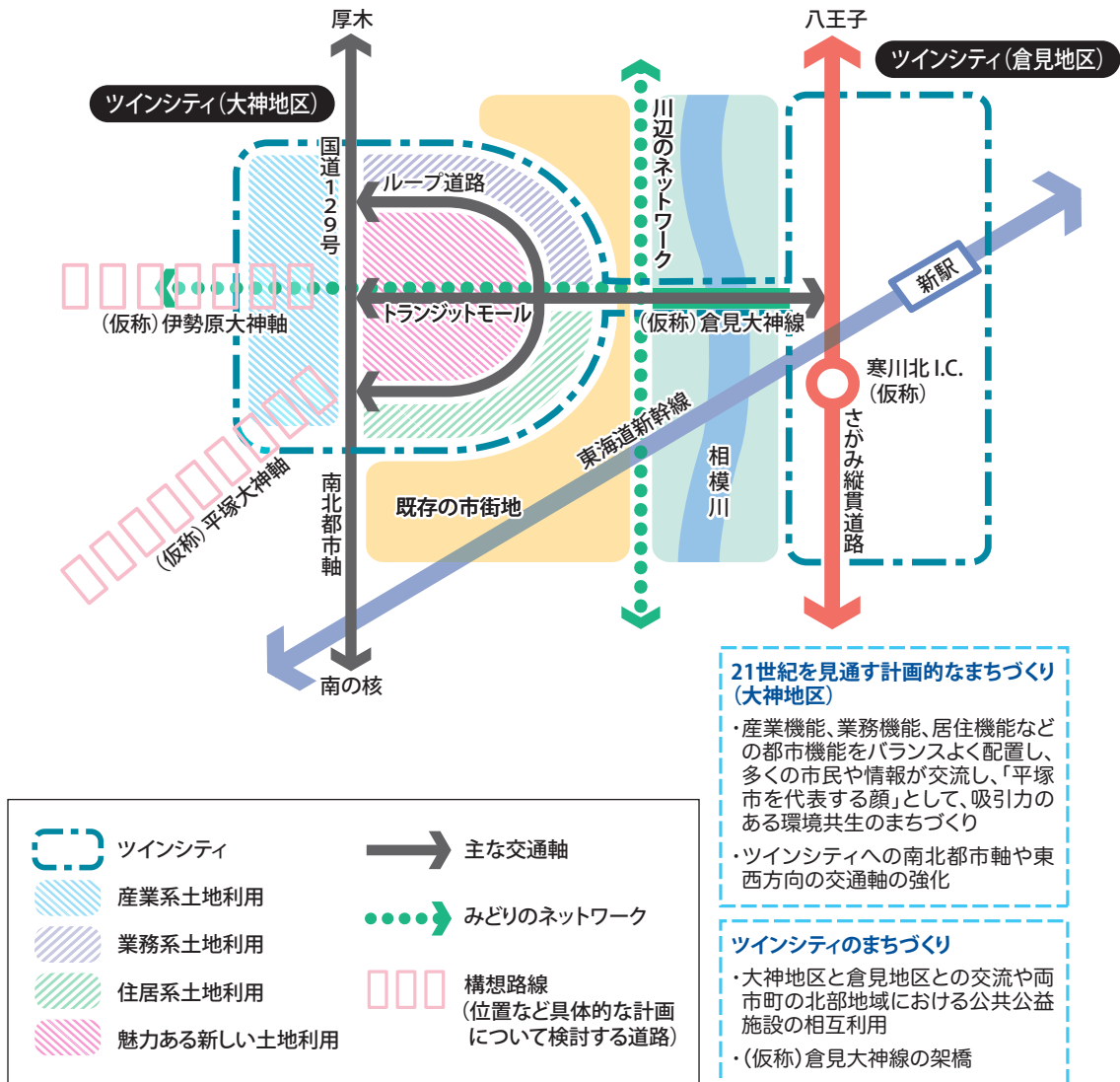
#### ●21世紀を見通す計画的なまちづくり（大神地区）

- ・ツインシティ（大神地区）においては、本市の新たな「核」となるよう、産業機能、業務機能、居住機能などの都市機能をバランスよく配置し、多くの市民や情報が交流し、「平塚市を代表する顔」として、吸引力のある環境共生のまちづくりをめざします。
- ・新たに創造される市街地の発展に向けて、ツインシティ（大神地区）への南北都市軸や東西方向の交通軸の強化をめざします。

#### ●ツインシティのまちづくり

- ・ツインシティのまちづくり機運の醸成に向けて、大神地区と相模川対岸の寒川町倉見地区で連携した交流の実施や両市町の北部地域における公共公益施設の相互利用の推進など、相模川東西の一体性を高めるまちづくり活動を検討します。
- ・大神地区と倉見地区、寒川北インターチェンジ（仮称）をつなぐため、新たな相模川橋りょうとなる（仮称）倉見大神線の整備を進めます。

ツインシティに係わる取組みの方向性のイメージ



## Ⅲ.3 ひらつかウェスタンヒルズ

### (1) 概況

- ・「ひらつかウェスタンヒルズ」のうち、土沢地区を中心とする西部丘陵地は、本市で最も貴重な自然が残っています。
- ・この西部丘陵地は、古くから人の手が入り、地域の人たちが利用してきた里山であり、農地と山林、集落が一体となった地域となっています。このように、農業の営みによって管理されてきた二次的な自然ですが、最近では農業の生産の場だけではなく、田園景観の形成、生物多様性の確保、生活文化の継承、環境学習の場としての活用など、多面的な機能が期待される貴重な地域資源と考えられます。
- ・近年、この地域は高齢化が進み、後継者が不足するなど地域の活力は低下しています。このため、人々の生活との関わりが薄れてきた農地や山林は荒廃が進む傾向が見られ、風光明媚な自然の維持が難しくなっています。

### (2) 顔づくりのねらい

- ・生活スタイルの多様化のなかで、自然の魅力と都市の便利さの両方を求める人々も多いと考えられます。それらの人々にとって、この丘陵地の自然は価値ある存在であり、広く市外に向けてアピールすることのできる資産です。このため、都会にはない豊かな自然環境、ゆとりある空間、土地資源の恵みをいかした地域形成を進め、地域の活力を高めていくことが重要です。

### (3) 取組みの方針

- ・学術機関や研究所などとの連携や市街地に隣接する地理的な優位性と豊富な地域資源をいかし、交流・ふれあい、レクリエーションの場を形成することで、地域全体の活性化をめざします。

### (4) 取組みの方向性

#### ●地域資源の活用

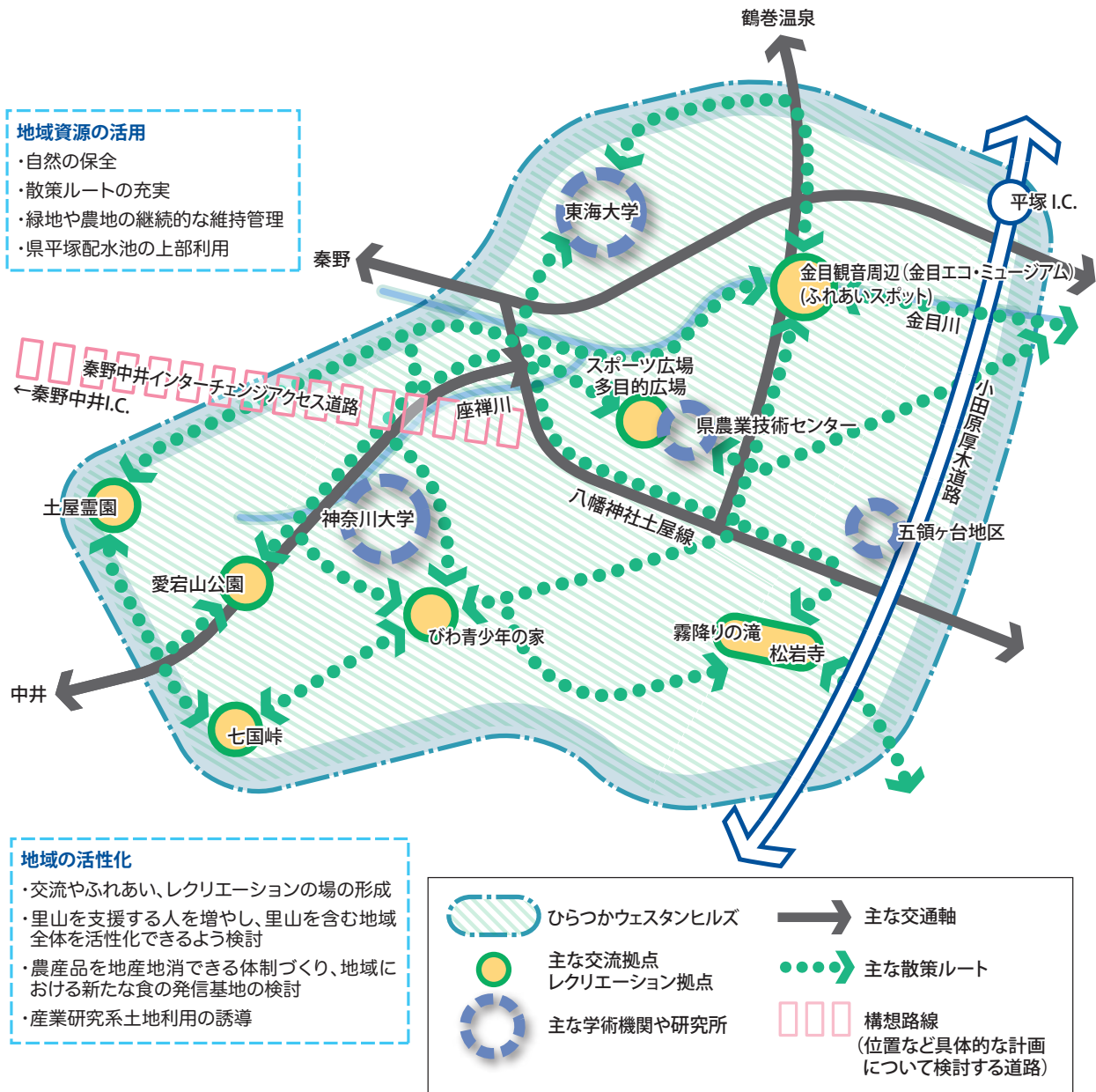
- ・良好な自然環境や景観、歴史などを広くアピールするため、西部地域にある多くの資源（平塚八景、びわ青少年の家、スポーツ広場・多目的広場（県平塚配水池の上部）、学術機関や研究所、金目エコ・ミュージアム<sup>\*</sup>など）を交流拠点やレクリエーション拠点とし、これらをつなぐ散策ルートを充実します。
- ・学術機関や研究所及び地域農業などとの連携を進め、地域の人たちの生活と関わりを持つ緑地や農地の継続的な維持管理を進めると共に、その土地利用について検討します。
- ・現在、スポーツ広場・多目的広場として利用されている県平塚配水池の上部については、交流やレクリエーションの場としての拠点性をさらに向上させるため、多目的利用の推進に努めます。

#### ●地域の活性化

- ・学術機関や研究所と連携し、地域資源をいかして環境教育<sup>\*</sup>をベースとした交流・ふれあい、レクリエーションの場を形成します。
- ・里山に愛着をもつ人や農業の支援をしてくれる人、遊休農地<sup>\*</sup>を活用してくれる人、新しい生活スタイルとして地域の人となり里山を支えてくれる人など、里山を理解する人の手を増やし、地域全体を活性化できるように検討します。
- ・農産物を地産地消できる体制づくりや新たな食の発信基地の整備など、地域全体の活性化策について検討します。
- ・周辺環境と調和する産業研究系土地利用の誘導に努めます。



### ひらつかウェスタンヒルズに係わる取組みの方向性のイメージ



## Ⅲ.4 ひらつかセントラルパーク

### (1) 概況

- ・「ひらつかセントラルパーク」は、平塚市総合公園と市役所など公共施設ゾーン、見附台周辺地区を一体的に捉えたゾーンです。
- ・平塚市総合公園は、街なかにあって30.3haの規模をもつ広大な公園です。野球場や競技場、体育館、プール、テニスコート、自由広場、相撲場、レストハウスなどがあり、スポーツや散策、憩いを通じてうらおいのある生活が楽しめる公園として多くの市民に親しまれています。なお、平塚市総合公園は、市民アンケート調査<sup>\*</sup>によると「平塚市に魅力や誇りを感じる点」で第1位となっています。
- ・平塚市総合公園の南東方向には、みどり豊かな環境のなかに、市役所を始めとする行政機関や図書館・美術館・博物館など文化施設が立地し、公共施設が集積するゾーンとなっています。

### (2) 顔づくりのねらい

- ・平塚市総合公園や市役所周辺の公共施設ゾーンは、スポーツやレクリエーション、市役所を含めた図書館・美術館・博物館などの文化機能をいつでも楽しむことができる街なかのオアシスであり、また、見附台周辺地区は、音楽・芸術にふれあえる場所となっています。これらを含めた範囲をひらつかセントラルパークとして、その魅力を一層高めることが重要です。
- ・各種施設にあっては、住む人・働く人・訪れる人、また子どもから高齢者まで、誰もがスポーツや文化、音楽、芸術に親しめるよう、使いやすくすることが必要です。

### (3) 取組みの方針

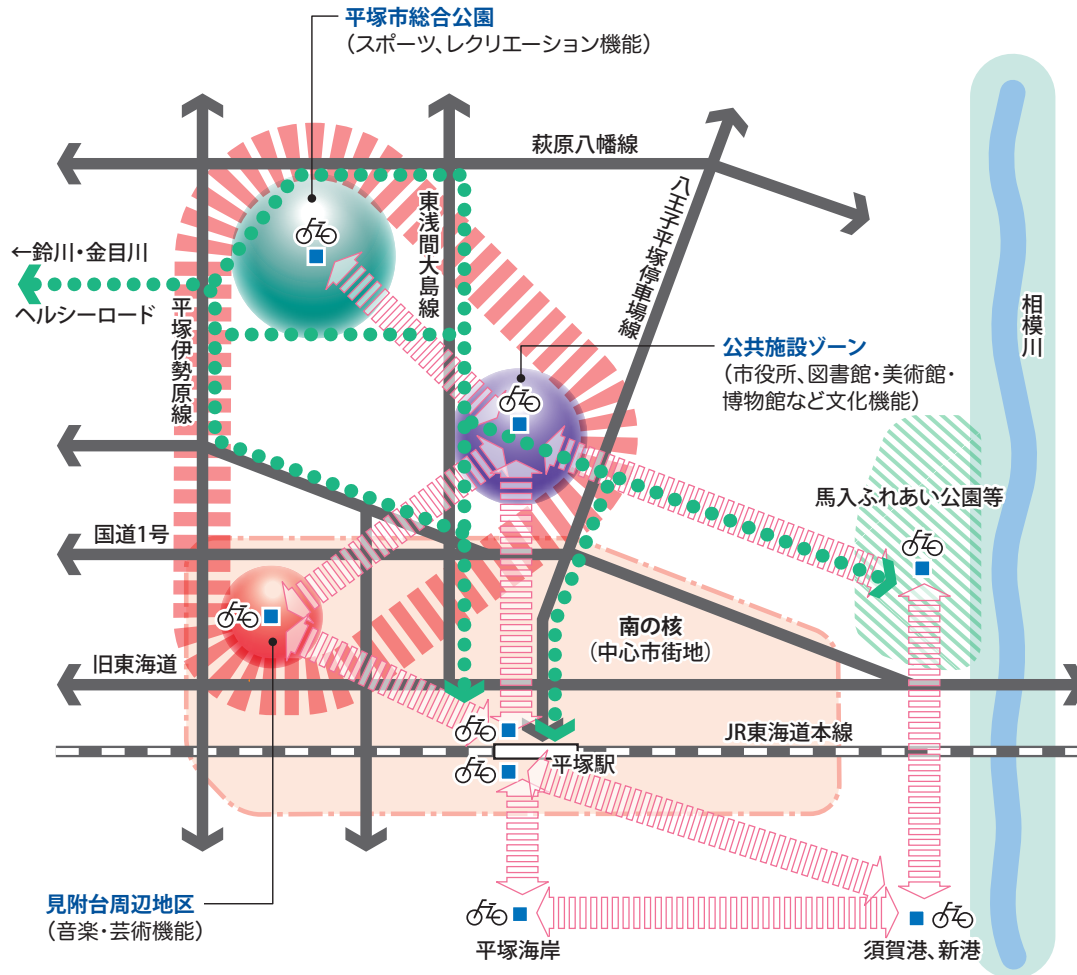
- ・さらに多くの市民につかってもらえるよう、利用者の視点にたった施設運営をめざします。
- ・誰もがアクセスできるバリアフリーのひらつかセントラルパークの形成をめざします。
- ・ひらつかセントラルパーク内の施設間をつなぎ、また、ひらつかセントラルパークを基点としたレンタサイクル網の形成を検討します。

### (4) 取組みの方向性

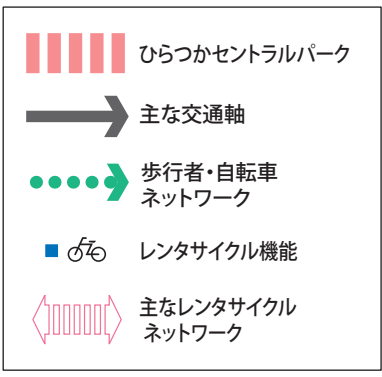
- 誰もが楽しめる利用者の視点にたったひらつかセントラルパークづくり
  - ・平塚市総合公園内や公共施設ゾーンの各施設は、利用者の視点にたった運営に心がけ、必要に応じて機能の高度化に努めます。また、施設内容やイベントなどの総合的な情報発信に努めます。
- 誰もがアクセスできるバリアフリーのひらつかセントラルパークづくり
  - ・平塚市交通バリアフリー基本構想<sup>\*</sup>や平塚市福祉のまちづくりモデル地区整備計画<sup>\*</sup>などを踏まえ、総合的なバリアフリーに努めます。
- ひらつかセントラルパークを中心としたネットワークづくり
  - ・施設間を回遊し、散策や休憩ができるよう、歩行者空間や自転車空間の創出、みどりやオープンスペースの充実などを進めます。
  - ・ひらつかセントラルパークを基点として、中心市街地や馬入ふれあい公園等、鈴川・金目川、平塚海岸など、やや遠方にも気軽に行けるよう、レンタサイクル機能の拡充について検討します。



### ひらつかセントラルパークに係わる取組みの方向性のイメージ



- 誰もが楽しめる利用者の視点に立ったひらつかセントラルパークづくり**  
 ・各施設は利用者の視点に立った運営、必要に応じて機能の高度化、総合的な情報発信
- 誰もがアクセスできるバリアフリーのひらつかセントラルパークづくり**  
 ・総合的なバリアフリー
- ひらつかセントラルパークを中心としたネットワークづくり**  
 ・施設間の回遊性の創出、歩行者空間や自転車空間の創出、みどりやオープンスペースの充実  
 ・周辺の中心市街地や馬入ふれあい公園等、平塚海岸などつなぐレンタサイクル機能拡充の検討



## Ⅲ.5 ひらつかなぎさステージ

### (1) 概況

- ・「ひらつかなぎさステージ」は、ひらつかの海岸線と相模川を通じて馬入ふれあい公園等及び花水川を通じて桜ヶ丘公園までのU字型の水辺ゾーンであり、漁業施設の利用促進や遊漁船業などのレジャー産業の活性化が図られ、様々な人を海に誘う広域的なポテンシャルが高まっているゾーンです。
- ・首都圏内陸部からさがみ縦貫道路経由で南下して出会う太平洋がひらつかの海です。このひらつかの海は、漁業とマリンレジャー<sup>※</sup>が行われ、人々のにぎわいの拠点となりつつあります。
- ・湘南ひらつかビーチパーク<sup>※</sup>とこのビーチパークを活用する市民グループの活動は、全国的な先進事例として評価されています。

### (2) 顔づくりのねらい

- ・さがみ縦貫道路の開通で移動時間が大きく短縮され、首都圏内陸部の人にとってひらつかの海は身近な存在となります。このため新港周辺は海業（うみぎょう）<sup>※</sup>の拠点として、ひらつかの海がもつ魅力や能力をフルにいかし、広域に向けて積極的にアピールすることが重要です。

### (3) 取組みの方針

- ・海や川の良い環境を維持及び保全し、新港周辺にレクリエーションを始めとする多機能型の拠点を配置し、海辺と川辺にある既存の魅力ある施設をつなぐことによって総じて高い魅力をもち、人々ににぎわうステージとすることをめざします。

### (4) 取組みの方向性

#### ●海辺や川の自然やみどりの保全

- ・平塚海岸は、より良い海辺とするため、緩衝帯となる松林などの維持及び保全、そして砂浜の養浜<sup>※</sup>を進めます。また、相模川や花水川の自然やみどりの維持及び保全を進めます。

#### ●海を多面的に活用し、市内各地域の資源をアピール

- ・ひらつかビーチパークから新港周辺及び須賀港周辺は、漁業基盤施設の充実、観光や市民交流の場の創出、海にまつわる文化の継承と発信、マリンレジャーの機能強化、災害時における海上輸送による救援物資の輸送ルートの確保など、多機能型の拠点整備に向けて総合的に検討します。
- ・この拠点においてひらつか自慢を広くアピールするため、市内の各地域と連携し、それぞれの地域の様々な名産品や物産品などを集め、地産地消を進めることができるよう検討します。

#### ●海辺と川辺をいかしたネットワークづくり

- ・海辺や川辺にある既存の魅力施設をいかし、快適に散策やサイクリングができる海辺と川辺を、馬入ふれあい公園等や桜ヶ丘公園などをつなぎ、回遊構造の形成に努めます。

#### ●新港背後地に隣接する大浜地区の土地区画整理事業の推進

- ・新港背後地とこれに隣接する大浜地区は、土地利用や道路計画上密接な関係にあるため、双方の整備計画を整合して、より効果のあるものとし、大浜地区の土地区画整理事業<sup>※</sup>を推進します。

## ひらつかなぎさステージに係わる取組みの方向性のイメージ

